

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年4月21日～2014年4月27日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年5月14日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

▼ラヴロフ露外相がチリクバ「アブハジア外相」とサナコエフ「南オセチア外相」と会談(25日)

・モスクワにて会談し、2014年～2015年の「外務省」間の協力計画に署名した。署名式の後、ラヴロフ露外相はチリクバ「アブハジア外相」とサナコエフ「南オセチア外相」に国際協力への貢献を称える露外務省胸章を授与。
・同日行われたCIS諸国の若手外交官のフォーラムでは、アブハジアとクリミアを比較した質問に対し、ラヴロフ露外相は「独立を選択したアブハジアの人々の意志を尊重する」と答えた。

【アブハジア】

▼アブハジアがGoogle Voiceのリストに載せられる(24日)

・ビデオ電話のサービスを提供するGoogle Voiceが、国際電話をかけることのできる国のリストにアブハジアを含めていることが判明。南オセチアは含まれていない。

【南オセチア】

▼南オセチア「国家保安委員会委員長」が解任される(21日)

・ティビロフ「大統領」は高齢を理由にアトエフ「国家保安局長」を解任。アトエフ氏は2006年11月から同職。後任にヴィクトル・シャルガエフ氏を指名。

▼第44回IPRM会合(27日)

・参加者は前回3月21日の会合以降の治安状況および拘束事案を検討し、問題解決のために、復活祭前にグルジアのTV局員3名が拘束された際にも活用されたホットラインの積極的な利用を歓迎。耕作地への住民のアクセスなどさまざまな問題について議論が行われた。

2. 外 政

▼ロシアで拘留されていたグルジア人「スパイ」が釈放される(22日)

・露紙の報道によれば、2008年にヴラジカフカスで逮捕され、スパイの容疑で11年の禁固刑を受けていたグルジア国籍の男性がロシアで22日に釈放された。2月にもスパイ容疑で拘留されていたグルジア人2人が釈放されている。4月16日にカラーシン露外務次官と会談したアバシゼ対露関係首相特別代表は、近く3人目が釈放される予定であると述べていた。

▼イラン大統領がグルジアとイランとの関係の拡大について発言(22日)

・ロウハニ・イラン大統領は、着任した駐イラン・グルジア大使の信任状の捧呈を受けた際、アゼルバイジャンを経由してイランとグルジアを繋ぐ鉄道プロジェクトは地域全体に大きな利益をもたらすとして、グルジアとの関係の拡大、とくに経済協力の発展を望むと発言。現在、イランとアゼルバイジャンを繋ぐ鉄道の敷設が進んでおり、将来、ロシアおよびグルジアの鉄道と接続する予定。

▼パンジキゼ外相がギリシャを訪問(23日)

・ギリシャは現在EUの議長国。「パ」外相はヴェネズエラ外相と会談した。会談後の共同記者会見で「ヴェ」外相は、6月末までのEU・グルジアの連合協定への署名を再確認し、その意義を強調。NATO加盟についても議論したと述べた。「パ」外相は、非常に実り多い会談であったとして、グルジアの領土一体性および欧州との統合の追求に対する「ヴェ」外相の支持に感謝を述べた。

▼イスラエルの内相がグルジアを訪問(23日—25日)

・サアル・イスラエル内相は、ガリバンヴィリ首相およびチカイゼ内相と、犯罪対策を含む二国間協力などについて会談。パンジキゼ外相、ツルキアニ法相、イリア2世グルジア正教会総主教とも会談した。2008年以降途絶えている両国の軍事協力を再開する可能性に言及。

▼メリア米国務次官補がグルジアを訪問(23日—26日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領との会談では、米・グルジアの二国間協力の強化、民主化、人権状況、グルジアのEU・NATO加盟の追求、EUとの連合協定の署名後の措置などについて議論。メリア米国務次官補はグルジアに対する米国の強い支持を強調した。

・メリア米国務次官補はガリバンヴィリ首相とも会談。

・25日、メリア米国務次官補らが参加し、米・グルジアの戦略的パートナーシップ憲章に基づく、民主主義・統治に関する作業部会の第7回会合が開かれ、グルジアの民主改革についての議論が行われた。グルジア側はザルカリアニ外務次官、ロルトキパニゼ法務次官らが出席。会合後、メリア米国務次官補は、グルジアの民主主義は近年大きく発展したと述べた。

▼フランスとドイツの外相がグルジアを訪問(24日)

・ファビウス外相とシュタインマイヤー独外相はモルドバ訪問後にグルジアを訪問。訪問はもともと3月に予定されていたが、ウクライナ情勢を受けて延期されていた。マルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパンヴィリ国会議長、ガリバンヴィリ首相、パンジキゼ外相、バクラゼ「統一国民運動」院内総務と会談。

・「パ」外相との共同記者会見で、仏外相はグルジアの改革を称賛し、EUとの連合協定への署名がグルジアの現代化を強力に後押しするだろうと述べた。中央アフリカ共和国でのEU軍事活動へのグルジア軍部隊の派遣を歓迎。

・独外相は、連合協定は誰とも敵対するものではなく、グルジアとロシアの経済関係を妨げることはないとして、そのことはロシアもよく分かっているはずだと強調した。また、6月に署名が行われることは疑いなく、その後は、協定の実施にあらゆる努力が向けられると述べた。

・「パ」外相は、ウェールズでのNATO首脳会談で、グルジアの改革および欧州・大西洋の安全保障に対する貢献が適切に評価されると信じていると述べた。それに関して質問された独外相は、MAPに言及せず、NATOはグルジアとの関係を深めており、それにふさわしいメカニズムが見い出されるだろうと答えた。

・両外相との会談後、「ウ」国会議長は、「EUの扉はグルジアに開かれているが、それは、今日我々が中に入れることを意味するものではない」と述べた。

▼マルグヴェラシヴィリ大統領がチェコを訪問(24日—25日)

・プラハで行われた、EU東方パートナーシップ開始から5周年を迎えることを記念する行事に、EUおよび東方パートナーシップ諸国の首脳らとともに出席。

・「マ」大統領はモルドバ、スロヴァキア、アゼルバイジャン、チェコ、アルメニア、リトアニアの大統領、スウェーデンの副首相、デシチツァ・ウクライナ外相と個別に会談。「デ」ウクライナ外相との会談後、「マ」大統領は、ウクライナで5月25日に行われる予定の大統領選挙の重要性を強調し、「選挙の結果が全世界から承認されるよう、我々はさまざまなレベルで協力を続けることで合意した」と述べた。

・フューレ EU 拡大・近隣政策担当欧州委員とも会談。会談で「フユ」委員は、グルジアが査証自由化に向けて反差別法を速やかに制定するよう期待を表明した。

▼マルタの外相がグルジアを訪問(25日)

・ヴェラ・マルタ外相はガリバシヴィリ首相、ウスパシヴィリ国会議長、パンジキゼ外相、ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合問題担当国務大臣、イリア2世グルジア正教会総主教と会談。会談で、イリア2世総主教は、「グルジアはEUに加盟せねばならない」と発言。

3. 内 政

▼中央選挙委員会がオクルアシヴィリ元国防相のゴリ市長への立候補を却下(22日)

・6月15日の地方選でオクルアシヴィリ元国防相はゴリ市長に立候補する意思を表明していた。19日、ゴリ市の地方選挙委員会は「オ」元国防相の立候補をいったん認めめたが、人民党などの申し立てを受け、「選挙まで2年間の国内での居住歴」の要件を満たさないとして、22日、

中央選挙委員会は立候補の不受理を決定。

・「オ」元国防相は提訴したが、25日、トビリシ市裁判所は中央選挙委員会の決定を支持。

▼アラサニア国防相のインタビュー(22日)

・「クヴィリス・パリトラ」紙に掲載されたインタビューで、「ア」国防大臣は、ロシアがジャヴァヘティ地方でアルメニア人住民を煽動するとの見方に関し、状況は政府のコントロール下にあるが、民衆を対立させようとする反国家的な団体が急速に増えているとして、社会の対立を煽るのはウクライナでも用いられたロシアの常套手段であり、我々は団結し、防諜能力を駆使して対応しなければならないと答えた。

・野党「統一国民運動」について、自身が父を撃ったアブハズ人達を許したように、国家の将来のためには、国の直面している危機を考慮して、統一国民運動の犯した過ちを部分的に許すことが必要であると述べた。

▼サーカシヴィリ前大統領の私設図書館が開館(22日)

・「サ」前大統領の資産と寄付によりトビリシ市の中心部に開館した図書館は、バルノヴィ前大統領府事務局長が理事を務める団体が運営する。

・開館式で、「サ」前大統領は米国から中継で「この図書館は新しい世代が力を得るための素地をつくり、過去と決別するための私のささやかな貢献である」と挨拶した。

・いつ帰国するのかと尋ねられた「サ」前大統領は、「私が訪問するのに障害のある国が2カ国ある。ロシアとグルジアだ」としつつ、「イヴァニシヴィリ前首相が想像するよりもずっと早くグルジアに戻る」と答えた。

▼反差別法に関するアムネ스티・インターナショナルの声明(24日)

・17日に国会が第一読を承認し、審議が続けられている反差別法について、アムネ스티・インターナショナルは、「法案は国会に提出される直前に修正され、効力が大きく弱められた」と指摘し、「政府は市民社会の懸念に配慮し、あらゆる種類の差別が実際に禁じられることを保証せねばならない」との声明を発表。

▼与党連合「グルジアの夢」が11市の市長候補者を発表(26日)

・6月の統一地方選挙に向けた選挙運動を公式に開始する与党連合の集会在トビリシで催され、イヴァニシヴィリ前首相も出席。ガリバシヴィリ首相が、既に発表されていたナルマニア・トビリシ市長候補(前地域発展・インフラ大臣)以外の11市の市長候補者を発表した。11市の市長は初めて直接選挙で選ばれる。市長候補者のムルグリア氏は前地域発展・インフラ次官。

4. 経 済

▼2014年第1四半期の銀行セクター(22日)

・グルジア国立銀行によれば、2014年第1四半期の銀行

セクターの総収入は 608.8 百万ラリ（前年同期 529.2 百万ラリ）、純利益の総額は 94.6 百万ラリ（同 65.3 百万ラリ）。21 行のうち 17 行が黒字。

▼グルジア・アルメニア国境インフラの改善を図るUNDPの計画が始動(22日)

・グルジア・アルメニア国境のサダフロ（グ）・バグラタシェン（ア）税関に欧州の基準に則した国境管理システムを導入し、両国間の貿易・移動の簡素化を図る UNDP のプロジェクトに関する会議がエレヴァンで開かれた。予算総額は 4,300 万ユーロ。

▼2014年第1四半期の貿易収支(24日)

・国家統計局が発表。貿易額 2,523 百万ドル（前年同期比 18%増）、輸出額 696 百万ドル（同 23%増）、輸入額 1827

百万ドル（同 16%増）。貿易収支は 1,131 百万ドルの入超。

・貿易相手国の内訳は CIS 諸国 35%、EU 諸国 25%、その他 40%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、ロシア、ウクライナ、中国。日本は第 7 位の輸入相手国（輸入額 7,796 万ドル）。

▼国会が開発銀行の設立に関する審議を開始(24日)

・パートナーシップ基金を改組し、国営のグルジア開発銀行を設立する計画に関する法案の審議を国会が開始。計画は首相の下に置かれた経済評議会がまとめた。